［花き部門　平成29年度　指導参考資料］

事　項　名	夏秋ギク「精の一世」栽培における窒素施肥量		
ね　ら　い	本県において夏秋白輪ギクの主力品種となった「精の一世」は、従来の主力品種「岩の白扇」等に比べてボリュームが出やすく施肥による影響が大きいと考えられるが、施肥量と品質の関係について明らかとなったので参考に供する。		
指導参考内容	1　施肥量と品質 作付前の土壌中硝酸態窒素が10mg/100g以下の場合、窒素施肥量が0.5～1.5kg/aの間での品質は同程度で、この範囲での施肥による影響は見られない。 2　窒素施肥量 作付前の土壌中硝酸態窒素が10mg/100g以下の場合、窒素施肥量は従来の主力品種と比較して1/2～1/3の0.5kg/aでよい。		
期待される効　果	過剰な窒素肥料の施用が無くなり、コスト低減につながる。		
利用上の注意事項	1　本試験は、定植期５月中下旬、栽植本数約4,000本/a、無摘心栽培、７月上旬短日処理開始時草丈約60cmの場合に得られた結果である。 2　「花き栽培の手引き（平成23年３月版）」による標準施肥基準は、作付前の土壌中硝酸態窒素が10mg/100g以下の場合で、1.0～1.6kg/a程度である。 3　作付前硝酸態窒素が10mg/100g以上の場合は、窒素施肥量は0.5kg/aから開始する。		
問い合わせ先（電話番号）	農林総合研究所　花き部（0172-52-4341）	対象地域及び経営体	県下全域の「精の一世」作付経営体
発表文献等	平成27～28年度　試験成績概要集（農林総合研究所）		

【根拠となった主要な試験結果】

表１　窒素施肥量別の生育状況と切り花品質　　（平成27～28年青森農林総研）

年　度	窒　素 施用量 (kg/a)	作付前 硝酸体 窒素量 (mg/100g)	採花日 (月日)	切花品質 注)		
				切花長 (cm)	90cm調整重 (g)	２Ｌ率 (%)
平成27年	1.5	6.7	8/16	96	101	82
	1.0	6.9	8/17	98	100	84
	0.75	10.5	8/17	100	108	85
	0.5	8.2	8/16	96	96	82
平成28年	1.5	4.0	8/19	106	100	86
	1.0	3.9	8/20	105	90	80
	0.75	4.0	8/20	105	84	73
	0.5	3.5	8/19	103	89	82

注）ＪＡごしょつがる出荷規格を基準としており、２Ｌは切花長90cmの時、調整重70ｇ以上

〈耕種概要〉

１　挿 し 穂：イノチオ精興園株式会社導入穂使用
２　施肥方法：全量基肥
３　定 植 期：平成27年５月15日　　平成28年５月17日
４　長日処理：挿し芽日（平成27年４月30日　平成28年５月２日）から長日処理終了日（平成27、28年ともに７月３日）まで22:00～2:00の暗期中断
５　短日処理：長日処理終了日（７月３日）から採花終了（８月下旬）まで17:00～8:00の暗黒処理
６　栽植様式：条間10cm、株間10cm　中１条空け４条植、無摘心